

苫小牧高専 1 年生に対する英語授業改善の試み

松 田 奏 保*・東 俊 文**

An Attempt to Improve the English Teaching Methods to the First Grade Students of Tomakomai National College of Technology

Kanaho MATSUDA, Toshifumi HIGASHI

Abstract

We tried some new ways of teaching to the first grade students of Tomakomai National College of Technology in order to improve their English ability. We gave them "basic words quiz" regularly to fix English words of junior high school level. In addition, we tried teaching the way of extensive reading by using different texts from the school textbook. This paper is a report of these attempts.

1. はじめに

1. 1 1 年生に対する授業方法改善の目的

従来、本校の 1 年生は英語 A では英語 I の文部省検定教科書を使用し、読解力向上を目的とした学習を行っている。また、英語 B（文法）では高校生用文法教科書と参考書を使用し、主に一貫性を持った文法知識についての学習を、英語 B（英会話）ではネイティブスピーカーによる教授の元に簡単な日常英会話の学習をそれぞれ実施している。現在、それぞれの授業に於いてそれなりの学習効果を得てきていると思われる。

しかしながら、本校高年生学生の英語力の状況を授業の際などに確認すると、一部を除き全体の英語レベルは高専以外の同世代の学生と比べかなり劣っている印象が否めない。また、実際に社会に出た際、例えば、エンジニアとして国際的に活躍することが期待されている場合に、求められる英語力には遠く及んでいないのが現状である。

一方、高専の英語の授業単位数は日本の学校制度の主流である、高校→大学のパターンに比べると決して多いとは言えず、実際、英語 I から英語 II までの検定教科書を全ての単元に亘って最後まで終わらせることさえもできない状況である。また、高専生は元々英語よりも理数系に関心を持つ学生が多い傾向があるということ、即ち、英語学

習に対する関心や動機付けが全般的に弱いということも高専生の英語力の伸び悩みの一因となっていると考えられる。

更に、最近、少子化の影響によって高専に入学してくる学生の学力低下が非常に懸念される事態が生じてきている。実際今年度は 15 歳人口の減少率が急激に高まる最初の年度であり、本校に入学した 1 年生はその第一陣と言うことができる。従って、今までの授業手法に全く頼り切っているだけでは、他科目と同様、英語についても学力低下の懸念を払拭することはできない可能性が強まってきた。

以上のような、社会からの英語力強化の要請の高まりと、それに相反するような英語基礎学力の低下の懸念を契機に、今年度から今までより一層、本校新入生を対象とする授業の改善への取り組みに力を入れることにした。

以下では、本年度の 1 年生の英語 A の授業で実施した、あるいは進行中の授業の工夫について述べていこうと思う。

1. 2 従来の授業カリキュラム・授業内容とその問題点

前項でも述べたように、本校の 1 年生は英語 A では英語 I の文部省検定教科書を使用し、読解力向上を目的とした学習を行っているが、その実状は、各教官それぞれの工夫は随所に盛り込まれてはいるものの、基本的に従来の文法訳読式の枠を大きく踏み越えたものとはなっていない。もちろん、文法訳読式は、英語という、語順も書写体系

* 講 師 一般教科

** 助教授 一般教科

も日本語とはまるで正反対とも言える言語を初學者でも取り扱えるように体系立てた教授法という点でそれなりの利点があると考えられる。従って、従来から英語教育の大きな枠組みの中で変革が叫ばれても、根本的にはあまり変えられないと言うこともでき、現時点では未だ有力な教授法として採用せざるを得ない面がある。ただ、この教授法には従来から言われているように、例えば実際の英語運用能力の向上に必ずしも効果的であるとは言えないなど自ずから一定の限界があるように思われる。

以上のような状況の中で、今年度はとりあえず文法訳読式の授業に軸足を置きながらも、少しでも英語の運用力向上に寄与する要素を取り入れ、本校に於ける授業改善の方向を模索していくことにした。それは、英語Aという読解力向上を目的とした授業科目において、読解力の向上に必要な不可欠な基本単語を充実させる試みと、文法訳読式という教授法の枠には収まりきらない、英文の多読速解能力を高める試みの2つである。

まず、中学校での英語基礎力の低下の懸念に対応するため、中学校で習得しているはずの基本的な英単語の復習並びに定着を狙いとした「基本単語テスト」を定期的に実施することにした。これはアイデアとしてはいささか新味に乏しいものの、英語の基礎力の要である基本単語を記憶に定着させることにより、高年生の英語力の低下抑制や将来の英語運用への実効性を期待できる対策として、手法次第では大いに効果を上げられるものと考え採用したものである。

もう一つは英文の多読速解能力を高めることを狙いとした「多読授業」である。この授業は、Graded Readerを採用して学生が語彙力不足を極力感じずに、英語を英語自体の文脈の流れそのままに読みとる力をつける事で、学生の英文への抵抗感を少しでも軽減し、将来实际的に英語を読みとっていく際に役立つよう意図したものである。この手法は、数年前より本校英語教官の間で取り入れられ始めているが、1年生に適用するのは今回が初めてであり、また、方法や手順についても異なる点がある。

因みに、現在授業で使っている教科書は結果的に本校1年生の教材としては文法事項がやや高度で、最初の章から文の量や語彙の量が多いように思われる。英語の文章の構造を学んだり、語彙量を増やすといった事を含め、精読の教材としては有効であるが、英文の多読速解能力を高める事を

考えた場合、必ずしも適切とは言えないと思われる。こうした点からも、「多読授業」を採用することで教科書の授業内容とのバランスが取れるという利点がある。

以上、簡単に概要を述べたが、詳細については以下で述べていくことにする。

1. 3 英語学習に対する1年生の意識

1. 3. 1 第1回1年生アンケートの実施

上記の試みを実施する前に、実際に1年生が英語学習に対してどのように感じているのか、アンケート(図1参照)を実施した。アンケートの対象は本校1年生計202名(内、機械工学科42名、電気電子工学科40名、情報工学科40名、物質工学科40名、環境都市工学科40名)である。アンケートの項目は次ページの表1の通りである。

こうしたアンケートは初回と言うこともあり、ややまとまりに欠けた設問形式になっているのは否めないが、質問項目を整理して分析してみると、英語という教科に対する学生の意識を探って行くことができるだろう。

1. 3. 2 第1回1年生アンケートの結果と分析

では、設問の各項目についての回答結果を見ていくことにしたい。

1の英語学習の好き嫌いについての設問であるが、「好き+まあまあ好き」と答えた学生が全体の42%なのに対し、「あまり好きではない+嫌い」と答えた学生が58%で、英語に対して消極的な学生のほうがやや多いという結果になった。表1では省いてあるが、英語の勉強が「あまり好きではない+嫌い」と答えた主な理由は「難しい」、「覚える事が多い」、「文の意味が取れない」、「母国語と違うから」とするものが多かった。また、学科別に見ても差があり、英語の勉強が「あまり好きではない+嫌い」と答えた率の多い学科ほど「難しい」等、英語の理解の困難さを理由に挙げる学生の数が多い。

2の英語を読むことについての設問であるが、これは「多読授業」を試みるに当たって学生の英文読解方法の現状をあらかじめ承知しておくために設けたものである。回答の結果、「あまり得意ではない+不得意」が70%と、かなりの数に上った。また、英文読解方法の現状についてはaの「辞書を使い、日本語に直しながら内容を理解する」が、半数近くを占めた。いずれもどちらかといえ

図 1

平成12年度 1 年 英語 A 第 1 回 アンケート

(工学科) (番) (氏名)

このアンケートは、みゆさんの英語学習についての現状を調査するもので、成績評価に何全く無関係です。安心して自分の正直な考えを聞かせて下さい。

1. あなたは英語の勉強が好きですか？該当するものを○で囲みなさい。

(好き ・ まあまあ好き ・ あまり好きではない ・ 嫌い)

また、それはなぜですか？理由を書いて下さい。

2. あなたは英語を読むことが得意だと思いますか？

(得意 ・ まあまあ得意 ・ あまり得意ではない ・ 不得意)

また、普段の英語の読み方を次の中から選び、番号を○で囲みなさい。

a 辞書を使い、日本語に直しながら内容を理解する。

b 辞書は参考にするが、英文を前から後へと自然な流れで読み内容を理解する。

c 辞書は使わず、英文を前から後へと自然な流れで読み内容を理解する。

d その他

3. 英語に関することで、あなたが興味があって、現在実行していることは何ですか？次の中から選び、番号を○で囲みなさい。（複数回答可）

a 英語で書かれたもの（新聞・雑誌・書籍など）を読むこと。

b 英語圏の映画を観たり、音楽を聴いたりすること。

c 英語の知識を学んで、習得していくこと。

d 英語を使って、外国の人たちと会話すること。

e 英語を使って、文を書くこと。

f ラジオ講座やテレビ講座などを利用して勉強している。

g その他

4. あなたが中学校から今まで、英語を学習している内に、ここがわからないと思った部分（授業内容や文法項目や学習方法など）はありますか？あれば具体的に書いて下さい。

5. あなたの普段、予習復習などの時、英語の勉強をどのような方法で行っていますか？具体的に書いて下さい。また、その中で独自の工夫がある人はそれも書いて下さい。

6. あなたは実用英検の資格を持っていますか？持っていればその級を○で囲んで下さい。持っていない人は資格を取る意思があるかないか番号を○で囲みなさい。

(資格を持っている ・ 資格を持っていない)

1 級 準 1 級 a これから資格を取りたい

2 級 準 2 級 3 級 b 資格を取るつもりはない

4 級 5 級 c 未 定

7. あなたは自分にとって英語は将来必要だと思いますか？

(思う ・ 思わない ・ わからない)

8. 英語ができると将来の自分にどんな可能性出てくと思いますか？次の中から選び、番号を○で囲みなさい。（複数回答可）

a 就職に有利である。

b 海外留学や海外出張に有利。

c 外国旅行の時に困らない。

d 外国人とコミュニケーションができる。

e インターネットで海外の情報を受けたり、発信したりできる。

f 視野が拡がり、海外の文化を学べる。

g 英語の新聞・雑誌・論文・書籍などが読める。

h 英語で論文・手紙などが書ける。

i その他

9. あなたは自分の将来にとって、どの分野の英語の学習が特に必要だと思いますか？一つを選び○で囲みなさい。

(読むこと ・ 聞くこと ・ 話すこと ・ 書くこと)

また、それはなぜですか？理由を書いて下さい。

Thank you for your cooperation!!

学科名	1					2								3								4	5
						読むことが得意か不得意か				普段の英語の読み方													
	好き	まあまあ	あまり	嫌い	得点	得意	まあまあ	あまり	不得意	a	b	c	d	a	b	c	d	e	f	g	不明な部分	学習方法	
A	2	13	19	8		0	11	25	6	19	15	4	5	3	25	4	1	0	0	8			
B	5	14	16	5		1	14	18	7	18	18	2	1	4	21	7	7	4	0	7			
C	9	15	11	5		1	14	19	6	18	15	3	5	3	27	5	4	5	2	9			
D	3	11	16	10		0	10	22	7	21	13	5	1	3	20	7	2	6	1	6			
E	2	11	14	13		2	7	16	15	19	13	3	4	2	26	0	4	1	1	7			
合計	21	64	76	41		4	56	100	41	95	74	17	16	15	119	23	18	16	4	37			
百分率	10%	32%	38%	20%		2%	28%	50%	20%	47%	37%	8%	8%										
百分率	42%		58%			30%		70%															

学科名	6										7			8										9							
	資格あり							資格なし																							
	1級	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級	a	b	c	思う	思わない	わからない	a	b	c	d	e	f	g	h	i	読むこと	聞くこと	話すこと	書くこと	理由				
A	0	0	0	0	4	11	5	6	6	10	22	22	16	26	21	28	26	16	14	13	6	1	4	11	26	2					
B	0	0	0	1	13	8	4	5	1	8	27	2	8	29	24	24	24	22	11	18	10	1	1	8	28	4					
C	0	0	0	1	19	8	2	6	1	4	34	0	6	31	17	27	27	16	13	18	11	4	8	6	27	0					
D	0	0	0	0	7	12	4	2	2	13	20	3	14	27	14	22	23	13	17	21	15	1	5	9	26	2					
E	0	0	0	0	14	11	3	5	3	5	23	6	9	27	16	28	23	18	28	11	7	3	4	6	29	2					
合計	0	0	0	2	57	50	18	24	13	40	126	33	53	140	92	129	123	85	83	81	49	10	22	40	136	10					
百分率	0%	0%	0%	1%	28%	25%	9%	12%	6%	20%	59%	16%	25%										11%	19%	65%	5%					
百分率	62%							38%																85%							

表 1 平成12年度 1 年生英語 A 第 1 回アンケート集計結果

ば英文読解の初学者対象のアンケートということから予想できた回答ではあったが、英文を素早く適切に読むという力が不足気味であることが読みとれる。ただ、bの「辞書は参考にするが、英文を前から後へと自然な流れで読み内容を理解する」という回答が37%で、いい意味で予想外であった。

3の設問は英語を習得すること自体やその背景にある文化への関心度を問う設問である。最多の回答はbで、これもある程度予想がついたものである。複数回答可の設問なので、明確なことは言えないが、少数ながらb以外の回答をした学生がいたことは救いであるかもしれない。

4の設問については表からは省いたが、主なものとしては「学習方法」や関係代名詞や不定詞等の「文法事項」が挙げられていた。

5の設問についても表からは省いたが、多くは、「教科書の英文をノートに写し、辞書で単語を調べ、日本語に訳していく」というオーソドックスなものがほとんどであった。

6の設問は実用英語検定の資格を持っているかどうか、また資格を取得する意思があるかどうかを問うもので、3級と4級を取得している学生が全体の半数以上いることが明らかになった。また、資格を持っていない学生についても、必ずしも資格取得に消極的なわけではない傾向も僅かながら感じられる。

7の設問では英語の将来性についてどういった印象を持っているかを尋ねたが、6割近くが将来性を感じていることがわかった。

8の設問は7の設問を受け、どのような点に英語ができることによる将来の可能性を見いだせるかを尋ねたもので、複数回答可の設問である。最も多かったのはaの「就職に有利である」、続いてcの「外国旅行の時困らない」、3番目にdの「外国人とコミュニケーションができる」で、英語に対して実用・実利指向があることがわかった。3番目に多かったdの回答については、次の9の設問の回答でも裏付けられる。

その9の設問では英語の「読む」「聞く」「話す」「書く」のいわゆる4技能についてどの技能を伸ばしていきたいと感じているか問うことを意図した。その中で最も多い回答が英語を「話すこと」で、全体の65%を占めた。また「聞くこと」という回答を合わせると85%に達し、学生のオーラルコミュニケーション指向がかなり明確に現れている。

以上、第1回アンケート結果を順を追って見てきたが、英語学習について困難さを感じ、特に読解力については自らの力不足を実感しながらも、一方で英語によるコミュニケーションを望んでいるという現実と理想とのギャップが浮き彫りにされているように見える。

ただ、このギャップをなんとか少しでも埋めていくのが英語教官の役割とも言える。以下に述べる具体的な実践を初めとする授業改善の試みが一層必要性を増してくるようなアンケート結果であると受け止めて行かなければならないと考える。

2. 具体的な授業改善の試み

2.1 基本単語テスト

2.1.1 基本単語テスト実施の目的

高専に入学する学生は中学校では上位の方にいた学生が大半であるが、前述したとおり、最近の少子化傾向によりここ数年では学力が低い学生も入学しているという現状がある。そのような学生は、これから高専で英語を学習するのに必要な英語力を持ち合わせていない可能性があり、早い段階から低学力の学生への対策をとらなくてはならない。もちろん入学時で平均または上位の学生に対しても英語力の維持・強化が必要なので、1年生全体に対する試みの1つとして、英語の基礎となる単語修得を目的とした「基本単語テスト」を定期的に課すことにした。1年生のうちから基本単語を確実に身につけ、今後の高専での英語学習、さらに将来に向けての地盤固めをさせることを目的にしている。

この「基本単語テスト」をさせる前には、教科書の新出単語ではなく、英単語集の単語を覚えさせる。単語は「名詞」「動詞」「形容詞」など品詞ごとに分けられて掲載されており、それぞれ簡単な単語から始まっている。最初のうちは中学1年生で習う「基礎の基礎」の単語がたくさんあるので(boy, friend, run, swimなど)、中学校の復習も兼ね単語力の定着を図っていくことができる。また、そういった簡単な単語から始めればテストでも良い点数が取れ、単語に対する学生の自信につながるのではないかという意図もある。学生に自信を持たせながら、またテストを回数多く行うことで、学生の単語に対する抵抗感を少なくしていくことをねらった。

2.1.2 基本単語テストの実施方法

基本単語集「シグマ基礎英単語1500」(文英堂)の最初から順番に4ページ分(50単語)をプリントし、テスト日の2週間前に配布する。テストは、英単語→日本語25題、日本語→英単語25題で、1問2点の100点満点である(図2参照)。後者の問題は、例文として載っている英文を使って空欄に単語を書き込む形式なので、必要ならば単語を適当な形に変えなくてはならない。テスト時間は10分とし、テスト日にある各学科の「英語A」の時間内で行う。厳密に公平を保つためには5学科横並びで共通のテスト時間を設けることが必要だが、現実には時間割上できないため、少しでも問題の配布を避けるよう、授業変更をして5学科全部の「英語A」を1日にまとめることにした。前期では1学科の授業変更が必要だったが、後期からは運良く5学科とも「英語A」が1日に入ったので、授業変更は行わずにテストを実施することができた。若干の公平さは欠けることになったが、以上のようなやり方で、約1カ月に1回のペースで現在(11月末)までに5回実施した。

図 2

1 年生基本単語テスト 第 5 回

>>> Basic Words Quiz for the 1st Grade Students <<<

(工学科) 1 年 出席番号 (番)

氏名 ()

1. 次の単語を日本語にしろ。

(1) airplane []

(2) left (形容詞) []

(3) bus []

(4) next []

(5) car []

(6) last []

(7) station []

(8) easy []

(9) street []

(10) new []

(11) ship []

(12) like (動詞) []

(13) bridge []

(14) show (動詞) []

(15) building []

(16) bring []

(17) church []

(18) send []

(19) office []

(20) lend []

(21) garden []

(22) sell []

(23) house []

(24) wall []

(25) roof []

点 / 100点

2.1.3 基本単語テストの今後の課題

今までの5回のテスト結果を見ると、各学科の学生とも現段階の単語レベルにはついてきているようだ。ただ、現在までに終えた単語は単語集の3分の1ほどの量であり、そのほとんどが中学のレベルを超えていない。もちろん、基礎を固めるという意味においては目的を果たしているが、これでは絶対量が少ないのも事実である。今回は、テスト実施日を1カ月を目安にそのつど設定するという計画性のないやり方だったため、1年生終了時点での到達目標が定まっていなかった。これから年度末までにあと2〜3回テストを行う予定であるが、それでも「もう少し期間をつめれば実施回数を増やせたのではないか、扱う単語の量を増やせたのではないか」という思いが残る。この反省から、次回からは1年間で扱う単語の数を今回よりもう少し多く設定し、それを扱うには何回のテストが必要かをあらかじめ検討した上で計画的にやっていきたい。また、今回のこの試みは現時点では今年度の1年生のみで終わることになっているが、やはり積み重ねの必要な単語学習は学年が上がっても続けていくことが必要だと考える。少なくとも1年から3年まで1つの単語集を使って継続してやっていくなど、学年ごとに連携した継続的な学習体系をこれから検討していきたい。

2. 各英文の下線部にカッコ内の日本語に当てはまる単語を1語ずつ書きなさい。
[なお、必要な場合には形を変えること。]

(1) Some students go to school by _____ . (自転車)

(2) Everything is _____ for the Christmas party. (用意ができて)

(3) Call me a _____ , please. (タクシー)

(4) _____ , I will come to the party at 7 o'clock. (いいよ、/オーケー、)

(5) If you start now, you will catch the 4:39 _____ . (列車)

(6) Which river is the _____ in Japan? (一番長い)

(7) There is no royal _____ to learning. (道)

(8) I _____ for school this morning. (遅刻した)

(9) She stayed at a _____ by Lake Shikotsu. (ホテル)

(10) Keiko is _____ to her father. (愛しい)

(11) Let's row a _____ in the pond, shall we? (ボート、小舟)

(12) My watch is _____ . What time is it? (遅れて)

(13) My uncle keeps a gift _____ in Kyoto. (店)

(14) A good student is _____ to understand. (早い)

(15) George works on a big _____ . (農場)

(16) _____ you for inviting me to the party. (ありがとう)

(17) I went for a walk in the _____ in the afternoon. (公園)

(18) Mr. Sato was _____ with the present. (気に入る)

(19) The _____ was covered with fallen leaves. (地面)

(20) Babies _____ plenty of sleep. (必要である)

(21) Play _____ on a fine day. (戸外で)

(22) He always _____ a lot of money with him. (身に付けて持っている)

(23) You broke the _____ , didn't you? (窓)

(24) She _____ much money on dresses. (使う)

(25) I'll _____ a watch for my son. (買う)

2.2 多読授業

2.2.1 多読授業の目的

普段の授業では、教科書の本文を熟語や文法事項を説明しながら時間をかけて読んでいく「精読」が主なやり方であるが、実際に日常生活で英文を読む状況におかれた時は、ある程度のスピードをもって読み、かつ正確に内容をとらえなくてはならない。精読は英語を学ぶ上での一つの方法ではあるが、英語の力をつけるためには精読だけではなく、たくさんの英文を短時間に読み理解する訓練、すなわち「速読・多読」も必要となってくる。しかし1年生はまだまだ頭に入っている単語や熟語が少なく、多くの文法事項も学ばなければならないため、時間をかけて説明し理解させていく必要があるのも確かである。そこで教科書を使った精読授業を基本としながらも、短期間ではあるがそれとは別に多読授業を行うことで相乗的に英語読解力の基礎作りを図り、その向上につなげたいと考えた。

またこの授業では、英文を読む際に、カセットによる朗読を聞きながら読ませていく方法を用いた。これは、朗読と同じスピードで読むことで、英文の書かれている語順通りに頭から理解していく、いわゆる「英語の頭で読んでいく」ことの土台作りを狙ったものである。

こうした方法に関連して、学生に対する問題には「日本語訳」を課さないことにした。訳を作ろうとすると、語順が違うために英文を後ろから読み返して日本語を組み立て、内容把握よりもきれいな日本語を作る方に時間をかけてしまうことになる。これでは英語の語順通り前からスピードをもって読んで聞くという「多読」の主旨に反してしまうので、学生には物語中の人間関係、起こった出来事、誰が何をし、何を言ったかという問題を出し、内容理解を重視することにした。

英文の難易度は単語、文法とも簡単で、1年生でも読む際にそれほどつまずくことがないと思われるものを選んだ。わからない単語や文法が頻繁に出てくるとその度に読むための集中力が切れてしまうので、多読指導では簡単な英文を数多く読ませていくことが重要である。簡単な文章であれば英語力の低い学生であっても無理なく読んでいけるであろうし、そこで「読める、わかる」という実感が持てれば自信にもつながっていくはずである。

以上に挙げた観点から、多読授業を行うことに

した。

2.2.2 多読授業の実施方法

1年生全5学科の英語A（週3時間）の授業で、2名の教官により夏休み前の5時間（1時間：45分）を使って実施された。また夏休みにも多読指導の課題を出し、休み明けにその内容確認テストを行った。

まず授業でのテキストは、Oxford University Press から出ている“Black Series”の中から選ぶことにした。この“Black Series”は、A5版のペーパーバックで1冊が約40ページほどと多読には適当な量であり、また様々なジャンルの小説を扱い内容も楽しめる教材である。今回はこのシリーズの中から最も簡単なレベルのStage 1に入っている物語“The Elephant Man”を選んだ。この作品は映画にもなっており、内容は知らなくても題名だけは知っている学生もいると思い、少しでも興味が持てるのではないかと考えたからだ。

授業は、1～7章を章ごとに分けて1つずつ進めていった。大まかなやり方は下記の通りである。

1. 1つの章を印刷したプリントを配布。テープを聞きながら本文を目で追って、そのスピードで理解させる。
2. その章に関しての質問が書かれた「内容確認問題」（図3参照）を配布し、解答欄に答えを書かせる。
3. 回収し教官が採点する。解答時間が少なかったときは宿題とする。
4. 回収して採点した用紙を返却し、質問の答えとなる内容がどこに書かれているかを本文にチェックさせる。

授業では、このストーリーのグロスリー（語彙集。単語の説明は英語で書かれている）を印刷して配布し、辞書の代わりにグロスリーを使用するように指示した。単語の意味を調べるのに時間をかけさせないこと、そして英語での単語説明に慣れさせるためである。

また本文に入る前に、導入としての“Pre-reading activity”（図3左上参照）を行った。これは別冊としてある「Activity Worksheets」からとったもので、各テキストの内容理解を助けるために、様々な活動ができるよう工夫された問題が用意されている。この“The Elephant Man”の“Pre-reading activity”には本文の中でて

図 3

STAGE
1

The Elephant Man

Pre-reading activity

Take a letter

* 下の字組を読んで、後の質問の答えを考えてみなさい。

1 Joseph Merrickはどこで手紙を書いていますか？
また彼はなぜそこにいると思いますか？

2 女王はなぜMerrickに素敵なカードと美しい写真を送ったと思いますか？
彼女は彼にどんな写真を送ったのでしょうか？

3 なぜこれが彼にとって「最初のクリスマス」なのだと思いますか？
彼は大人ですが、それでは、彼のそれまでの人生ではクリスマスの時、一
体どんなことがあったのでしょうか？

(素人ははっきりしない所も物語を読んでいく内に分かってきます。)

4 なぜ彼は母親とクリスマスを送ったことを覚えていないのでしょうか？

5 Josephが今ではたくさんの有名な婦人達やTreves博士のような親切な人達
と知り合いなのはなぜだと思いますか？

6 なぜJosephは今とても幸せなのでしょう？
そして、そのことは彼の前半生について何を物語っているのでしょうか？

The London Hospital
23rd December 1888

My dear Queen

Thank you very, very, much for your wonderful card
and the beautiful picture. It is the best thing in my
room, the very best, the most beautiful thing I have.
This is the first Christmas in my life, and my first
Christmas present. Perhaps I had a Christmas with my
mother once, but I do not remember it. I have my
mother's picture too, and she is beautiful, like you. But
now I know many famous ladies and kind people like Dr
Treves, and I am a very happy man. I am happy too
because I am going to see you in the New Year.
Happy Christmas to you, my dear friend.

With all my love,
Joseph Merrick

The Elephantman

--- Chapter 2 ---

>>> Comprehension Check <<<

科 番 氏名

* 次の質問に日本語で答えなさい。

1. Why were there not many people in the road ?

2. How long did Dr Treves wait ?

3. Why could Dr Treves not see Merrick's face and body ?

4. Write the correct sentence of "Elpmypusteps." (in English)

5. Why did Dr Treves feel very strange when he helped Merrick ?

6. How did they get to the hospital ?

7. Did the postman think at first that Merrick was a lady ?

8. Where did Merrick put Dr Treves's card ?

9. Did Dr Treves talk to Merrick at the hospital ?

10. Was there the picture in the shop window the next day ?

The Elephantman

--- Chapter 3 ---

>>> Comprehension Check <<<

科 番 氏名

* 次の質問に日本語で答えなさい。

1. How long did Dr Treves not see Merrick again ?

2. Why did the police bring Merrick to the hospital ?

3. Who was Mr Carr Gomm ?

4. Who did Mr Carr Gomm write a letter to ?

5. Could Merrick live in the hospital for all his life ? Why ?

* 次の各文は手紙に書かれている内容です。空欄を日本語で埋めなさい。

6. メリックは 歳である。

7. シルコックはメリックをベルギーに連れていき、そこでメリックは
ポンドを手に入れた。しかしそのお金は
しまった。

8. メリックは ことはできないが、
することはできる。

9. 時々、メリックは親切な看護婦に
ことがある。

10. メリックは の写真を持っている。

The Elephantman

--- Chapter 6 ---

>>> Comprehension Check <<<

(科) 1年 (番) (氏名)

* 下の文は物語の内容に合っていますか？ 合っていればTを、合っていなければFをカッコ内に書き入れなさい。

1. Merrickはよく一人だけで病院外に外出しました。 []

2. Merrickは劇場に行って、劇 (play) を楽しみました。 []

3. Merrickの友人の一人が田舎に小さな一軒家を持っていた。 []

The Elephantman

--- Chapter 7 ---

>>> Comprehension Check <<<

* 次の質問に対する答えとして適当なものを○で囲みなさい。

1. Merrickはどこで亡くなりましたか？
【 見せ物小屋 ・ 灯台 ・ 病院 ・ 田舎の一軒家 】

2. Merrickは眠る時、いつも仰向けに寝ていましたか？
(注：仰向けに寝る= sleep on one's back)
【 仰向けに寝ていた ・ 仰向けに寝ていなかった 】

3. Merrickは徐々に亡くなったのでしょうか、それとも急死だったのでしょうか？
【 徐々に亡くなった ・ 急死だった 】

4. ロンドン病院長のMr Carr Gommは、Merrickの残したお金をどう使ったのでしょうか？
【 慈善団体にあげた ・ 病院にあげた ・ Dr Trevesにあげた 】

くる手紙が載っており、それに対するいくつかの質問を通して物語の内容を推測するようになっていいる。この時間では、まず最初に教官が手紙を音読し、学生はそれを聞きながら黙読して内容把握するというこれからの授業の簡単な事前練習をした後、それらの質問に触れながら物語の内容につながるヒントを与えた。こうした予備知識があった方が内容を理解しやすくなるはずで、何もわからずにいきなり本文に入るよりは効果的である。

以下、1連の流れがわかるように、ある1つの学科の実際に行った5回の授業内容と所要時間(カッコ内・単位：分)を紹介する。

＜1回目＞

- 1. 授業目的・方法の説明 (5)
- 2. グロサリー配布・説明 (2)
- 3. Pre-reading activity (10)
- 4. Chapter 1 配布 テープを聞く (13)
- 5. 内容確認問題1・回収 (15)

＜2回目＞

- 1. 内容確認問題1 返却・解答 (12)
- 2. Chapter2・3 配布、2のテープを聞く (10)
- 3. 内容確認問題 2・回収 (12)
- 4. Chapter 3 のテープを聞く (6)
- 5. 内容確認問題 3 →宿題 (5)

＜3回目＞

- 1. 内容確認問題 2 返却・解答 (12)
- 2. Chapter 3 解答・回収 (12)
- 3. Chapter 4・5 配布 4のテープを聞く (6)
- 4. 内容確認問題 4・回収 (13)

＜4回目＞

- 1. 内容確認問題 4 返却・解答 (10)
- 2. Chapter 5 のテープを聞く (10)
- 3. 内容確認問題 5・回収 (12)
- 4. Chapter 6・7 配布 6のテープを聞く (10)
- 5. 内容確認問題 6 →宿題 (3)

＜5回目＞

- 1. 内容確認問題 5 返却・解答 (10)
- 2. 内容確認問題 6 解答・回収 (5)
- 3. Chapter 7 のテープを聞く (5)
- 4. 内容確認問題 7 (5)
- 5. 内容確認問題 7 解答・回収 (5)
- 6. 授業アンケート (10)
- 7. 夏休み課題配布 (5)

夏休みの課題にしたのは、同じく Oxford University Press の “Black Series” で stage 1 に入っている “The President’s Murderer” である。授業で扱った “The Elephant Man” は教官側で決めたが、夏休みの課題は学生に読みたいものを選ばせようと思いアンケートをとった。その結果最も人数の多かったのが “The President’s Murderer” であった。選ぶ際の選択肢は3つだったのだが、それでも自分達が読みたいと思ったものを読む方が興味の持ち方も違ってくるし、楽しく読めるはずである。

最後の授業で、“The President’s Murderer”の本文と内容確認問題、そして Activity Worksheets からの問題を印刷して配布し、夏休み明けの最初の英語Aの授業で提出させた。その後、解答を渡し約1週間後に、“The Elephant Man” と合わせた「内容理解確認テスト」(図4参照)を行った。

以上における、授業及び夏休みの宿題として学生に出した「内容確認問題」は、教官が作った問題に加え、テキストの最後に載っている Exercises と Activity Worksheets を使って作成したものである。

2.2.3 多読授業の結果と分析
～1年英語A第2回アンケートより～

5回目の授業の最後に、全学科を対象に今回の多読授業に対するアンケート(図5参照)を実施した。

その結果は表2と表3である。それを検討すると、「授業方法が良かった」と答えた学生が全体の88%、「またこのような授業を受けてみたい」という学生も85%と、今回の授業はおおむね好評だったといえる。その要因としては、いつもの教科書の読解とはやり方が違って新鮮味があったこと、そしてストーリーのある物語で英文が易しかったことが考えられる。実際、“The Elephant

Man”の難易度を聞く質問では、全体では87%の学生が「易しかった・まあまあ理解できた」と答えている。英文を素早く読み内容を理解するための練習教材として、1年生にはこの“The Elephant Man”の難易度は適当だったと言える。今後また1年生の多読指導を行う際には、同じシリーズのstage 1にあるテキスト、またはそれと同レベルのテキストが良いであろう。

とは言え、約半数の学生が「もう少し読解力をつければもっと理解できるようになる」と考え、そのためには「単語・熟語の語彙力をつける」必要があるとの意見を持っている。易しく理解しやすかったのは確かだが、やはり語彙力不足を実感する結果となったようだ。前の章で述べたとおり、この多読授業とは別に「基本単語テスト」を行っているので、それと併せて語彙力アップへの意欲に結びつけて欲しい。

また読解力をつけるには、英文をもっと読んで、または聞いて「英語の語順に慣れるようにする」と答えた学生も31%と多く、今回の多読授業の目的である「語順のままに、英語の頭で読んでいく」ことに、少しでも学生の意識を向けることができたのではないだろうか。

2.2.4 多読授業の今後の課題

今回多読授業をやってみての反省点は、時間配分にやや無理があったことである。最初に作った5回分の授業のタイムテーブルでは、読むのにスピードを持たせる意味もあって、1時間に2章分を片づけていく予定であったが、プリントの配布、説明、学生の作業の速さなどいろいろな要因から、そうすんなりと次々に進めることができなかった。そのため、内容確認問題を記述式から記号・選択問題に変えたりして時間調節をしなくてはなくなり、最後は慌てて終わらせてしまった感がある。学生のアンケートでも「授業時間にもう少し余裕があれば、内容をもっと理解できと思った」という声が20%あり、大きな反省事項である。もう少し綿密な事前の打ち合わせと計画が必要であり、今後に生かしていきたい。

また題材の選択であるが、“The Elephant Man”に対しての学生の興味は、やや差はあるが約85%の学生が「興味を持てた」と答えている。教官が選んだ題材ではあったが、いい結果として出てきてほっとしている。ただ、中には興味をもてずに読んだ学生がいるのも確かであり、今後少しでも多くの学生が面白いと思えるものを題材に

し、学生の興味を引きながら英語力をつけさせていきたい。その意味では、夏休み課題を決めるときのように、学生に選択させることが学生にとってもモチベーションを高める一つの方法になるだろう。

1年生に対する多読授業の試みは、今回が初めてであり、今後もこの授業形式を1年生に取り入れていきたいと思っている。「簡単な英文でいいからたくさんの量を読んで英語に慣れる」ということを、1年生のうちから積み重ねていきたい。ただ現実問題として教科書の進度との兼ね合いがあり、こうした教科書以外の教材を使った授業にかけられる十分な時間の確保は難しい。今後は教科書の進め方も含め、限られた時間内での効率的な授業方法を工夫していく必要がある。

3. まとめと今後の課題

今回、1年生に対して幾つかの試みを実施し、ある程度の成果が得られた部分もあった。特に「多読授業」は予想していた以上に学生から好評であり、また、英語学習に対する抵抗感をいくらかでも和らげることができたものと思う。ただ、「多読授業」にしても「基本単語テスト」にしても、1年生に対しては今年度から始めたばかりの試みであり、実際の成果を期待するのはこの先もう少し時間を要すると思われる。また、この試みを単年度のみの試みとはせず、長期的視点に立って継続し、授業内容のより一層の充実・熟成を図っていく必要があると思う。

また、本論で主に述べた2つの試み以外にも様々な工夫を取り入れ、学生の英語力向上と英語への関心を引きだしていくことが必要であろう。

その一例として、実用英語検定の過去問題を利用した「学力テスト」を実施が挙げられる。これは定期試験だけで学生の英語の学力を判断するしかなく、ともすると井蛙の如く、高専内だけの評価のみに終始してしまいがちな現状を改善すべく実施していこうとするもので、高専外の英語力の水準と本校学生の水準とをできる限り客観的に比較し、学生により合った英語教育を提供することを目指としている。ここでは、アイディアが熟していない段階なので詳しく述べることはできなかったが、実際の実施結果等については機会があれば報告したいと思っている。

この他にも、第1回アンケートの実施結果に現れた、学生のオーラルコミュニケーション指向に合わせた授業の工夫や、実用英語検定を初めとし

図 4

(1)

多読授業・内容理解確認テスト
【2000年9月11日(月)実施】

以下の問題の解答は全て別紙の解答用紙に記入すること

----- The Elephant Man -----

【1】次の各文が内容に合っていればT、合っていないればFと書きなさい。【各1点】

- 1. It costs 2 pence to see the Elephant Man.
- 2. Dr Treves took the creature to the hospital.
- 3. Dr Treves gave the creature a card.
- 4. The police wrote a letter to The Times.
- 5. Merrick had a picture of his mother.
- 6. The King of England visited Merrick in hospital.
- 7. The Queen gave Merrick a box of chocolate.
- 8. Merrick wrote a letter to the Queen.
- 9. Merrick did not like the country.
- 10. Merrick died quietly in the street.

【2】次の1～5のできごとを物語の中で起きた順番に並べ替えなさい。【5点】

- 1. The next day I looked in the shop window again, but the picture was not there.
- 2. We gave Merrick two rooms at the back of the hospital.
- 3. I saw that the skin on his face was blue, so I knew he was dead.
- 4. There was man in the shop. He was a dirty man in an old coat with a cigarette in his mouth.
- 5. We went to the theatre in a cab with dark windows.

【3】1～5の文に続くものとして適当なものをA～オから選びなさい。【各1点】

- 1. Dr Treves is a doctor. . .
- 2. Merrick wore some old trousers. . .
- 3. When the nurse saw Merrick. . .
- 4. He tried to sleep on his back that night. . .
- 5. He was a man with a very ugly body. . .

- ア. . . she screamed and ran out of the room.
- イ. . . but no shirt, coat or shoes.
- ウ. . . at the London Hospital.
- エ. . . but he was a kind man, and he had a lot of friends.

【4】次のカッコ内に当てはまる語句を下のA～コの中から選び、記号で答えなさい。【各1点】

- 1. One day in 1884, Dr Treves saw () in the window of a shop near the hospital.
- 2. The creature had () over its head, because of the cold.
- 3. Merrick could not walk far without ().
- 4. When Merrick came back to London from Belgium, at first the police put him in ().
- 5. Because of the £50,000, Merrick could live in () for all his life.
- 6. The new nurse screamed and dropped the food on ().
- 7. () ran out of Merrick's eye and down the skin of his enormous, ugly face.
- 8. Merrick tried to get down on his () when he met the Queen.
- 9. In the morning, hundreds of () sang in the trees.
- 10. The water in () made a beautiful noise, like singing.

- | | | | | | | | | | |
|---|------------|---|---------|---|--------------|---|-----------|---|-----------|
| ア | birds | イ | a stick | ウ | a tear | エ | a picture | オ | the floor |
| カ | the stream | キ | knees | ク | the Hospital | ケ | a cloth | コ | prison |

【5】次のセリフは誰が言ったものか、下の中から選び記号で答えなさい。同じものを2回以上使ってもよい。ただし全部同じ記号は不可。【各1点】

- 1. Hundreds of people came to see him, you know, hundreds! I take him all over the country, I do!
- 2. Elpmyupasteps.
- 3. Is the gentleman ill?
- 4. Nothing is easy for you, is it?
- 5. Well, I don't want nurses to laugh at you.
- 6. I would like to live in a lighthouse.
- 7. A beautiful lady smiled at me and shook my hand!
- 8. No, please, Mr Merrick, do get up.
- 9. I think it looks like me, doesn't it?
- 10. There is some money left, so I am going to give it to the hospital.

- | | | | | | | | |
|---|--------------|---|-----------|---|---------|---|-------------|
| ア | Merrick | イ | Dr Treves | ウ | Silcock | エ | the postman |
| オ | Mr Carr Gomm | カ | The Queen | | | | |

>>> 図に続く >>>

(2)

【6】次の1～6は chapter 6 の一部を段落ごとに並べ替えてあるものです。内容に合うように正しい順番に直しなさい。(最初は3から始まります。)【5点】

- 1. Merrick thought the beautiful young lady in the play was wonderful. He wanted to talk to her too. At the end of the play he was very happy because she married a good young man.
- 2. The visit to the theatre was difficult but a visit to the country was more difficult. But again, one of his new friends helped us. She had a small house in the country, and Merrick could stay in it for the summer, she said.
- 3. It was a children's Christmas play. Merrick loved it. It was a most wonderful, exciting story. Often he laughed, and sometimes he tried to sing like the children in the theatre. He was like a child. For him, everything in the story was true.
- 4. Merrick thought about this for a long time. Then he said: 'Dr Treves, can I go to the country, please? I saw the country once from a train, but I never went there. I often read about it in books. It's very beautiful, isn't it? I would like to see it.'
- 5. He remembered this play for a long time, and he talked a lot about the people in it. 'What do you think they did after we left?' he asked me. 'Where do the young lady and the young man live? What are they doing now?' 'I don't know,' I said. 'Perhaps they live in the country.'
- 6. Once he was very afraid, because the bad man in the play was angry and had a knife. At first Merrick wanted to leave the theatre, but I stopped him. Then he was very angry with this bad man in the play. He hit his hand on his chair, and stood up and talked to the man. But nobody heard him. When the bad man went to prison, Merrick laughed.

----- The President's Murderer -----

【1】"The First Day" に関する次の質問に記号で答えなさい。【各2点】

- 1. 逃げていた男を追いかけていたのは何人の男達でしたか?
a. 1～2人 b. 3～4人 c. 5～6人 d. 7～8人
- 2. 逃げていた男は川の中で大体どの位の距離を走りましたか?
a. 1 km b. 2 km c. 3 km d. 4 km
- 3. どの位前にAlex Dinonは「大統領を殺した」のですか?
a. 2週間前 b. 3週間前 c. 2カ月前 d. 3カ月前
- 4. 彼はいつ刑務所から逃げ出しましたか?
a. 2.4時間前 b. 3.6時間前 c. 4.8時間前 d. 1週間前

【II】次の各文が内容に合っていればT、合っていないればFと書きなさい。【各1点】

- 1. Alex slept for three hours in a field.
- 2. He was afraid of Marta, the old woman.
- 3. Marta did not know Alex's name.
- 4. The police questioned all Alex's friends.
- 5. Alex knew the name of the President's murderer.
- 6. Felix wanted the army to help him.
- 7. Felix wanted to ask Alex some questions.
- 8. Felix was sometimes afraid of the Chief of Police.
- 9. The president wanted Alex alive.
- 10. Felix went to talk to people at the prison.
- 11. Marta didn't tell the police about Alex.
- 12. Nobody helped Alex.
- 13. Adam shot Alex in the street.
- 14. Felix knew that Alex didn't kill the old President.
- 15. Eva Hine was happy because Alex was dead.

【III】誰が下の文のようなことをしたのか、主題を下の選択肢から選び、記号で答えなさい。【各2点】

- 1. () came to Marta's front door at breakfast time.
- 2. () saw Alex at the window of Marta's house.
- 3. () said, 'Newspapers and the television never tell us the true story.'
- 4. () thought Marta was a stupid old woman.

- | | | | |
|-----------|------------------------------------|----------|-----------------------|
| (a) Marta | (b) The woman from the post office | (c) Adam | (d) Her friend George |
|-----------|------------------------------------|----------|-----------------------|

【IV】以下はAlexと彼の妻との会話です。会話文中のカッコ内に入る語を下の選択肢から選び、記号で答えなさい。【各1点】

- Olivia: I'm so () for you.
Alex: Yes, escape is going to be (). I talked to Pauli on the phone.
The police--
Olivia: Yes, but you escaped from (). You have a lot of ().
Perhaps Pauli can help you.
Alex: Perhaps. I've got some () friends. I know that. But I've got a lot of enemies too.

- | | | | | |
|----------|---------------|------------|-------------|------------|
| (a) good | (b) difficult | (c) afraid | (d) friends | (e) prison |
|----------|---------------|------------|-------------|------------|

>>> 2枚目に続く >>>

- (3) [V] 1～5の文に続くものとして適当なものを a～e から選びなさい。【各1点】
- A
- 1. Marta gave Alex some hot food...
 - 2. At three o'clock in the morning...
 - 3. Alex left the shop by the back door...
 - 4. Alex slept in the lorry...
 - 5. Felix was very angry...
- B
- a. ... and he slept in her house.
 - b. ... and ate the driver's sandwiches.
 - c. ... Alex said goodbye to Olivia.
 - d. ... because he could not talk to Alex.
 - e. ... because the police were coming.
- [VI] 以下の文はそれぞれ “The Fourth Day” の章の内容です。話の展開する順番に文を並べ換え、番号を書きなさい。(最初は6から始まります。) 【5点】
- 1. But a woman saw the police in the street.
 - 2. So he helped Alex and took him out through the back of the shop.
 - 3. But Alex could not escape out of the front door the shop.
 - 4. He did not like the police.
 - 5. A man in the shop looked at Alex and then went out quickly.
 - 6. Alex went into a shop because he wanted some food.
 - 7. He told the police about Alex.
 - 8. Just then the shopkeeper called out him.
 - 9. She came into the shop and sent her small son to tell Alex about the police.
- [VII] 以下の文の内容に合ったものを次ページのイラストから選び、番号を書きなさい。【各1点】
- a. You're a wonderful woman, Marta, Alex said. 'Goodbye and thank you.'
 - b. 'How did you escape from prison?' Marta asked suddenly.
 - c. 'I can't stay any longer,' Alex said. 'Perhaps the police are out there now.'
 - d. Felix and Adam asked a lot of questions in that small town, but they learned nothing.
 - e. 'But I did not kill the President,' Alex said. 'And the police know that.'
 - f. 'What are you saying? You lost him?' the Chief of Police said angrily.
 - g. The trees were a hundred metres away... fifty... twenty
 - h. 'What are you doing in my field, young man?' the old woman said.
 - i. 'And why do you work for the police, young man?' Marta said.



>>> 終わり >>>

図 5

- 平成12年度 1年 英語A 第2回 アンケート
- 【 学号】 [氏名]
1. 今回の多読授業は興味が持てましたか? 該当するものを○で囲みなさい。
(興味深かった ・ まあまあ興味を持てた ・ あまり興味を持てなかった ・ 面白くなかった)
2. 今回多読授業を受けて、具体的にどんな感想を持ちましたか? 該当するものを○で囲みなさい。
a 特に努力しなくても、十分内容を理解できると自信がついた。
b もう少し読解力をつければ内容をもっと理解できるようになるのに・・・と思った。
c 授業時間にもう少し余裕があれば、内容をもっと理解できるようになるのに・・・と思った。
d 難しくなくて大変ではあったが、ためになりそうな授業だと思った。
e 難しすぎてついていけないと思った。
f 普段の授業との違いにあまり意義を感じなかった。
g その他
3. 今回、多読授業を受けてみて、こういった部分に気をつければ更に読解力が伸びると思いますか? 自分に「特に」あてはまると思う選択肢一つを○で囲みなさい。
a 単語・熟語の語彙力不足を解消するよう努力する。
b 文法力の不足を解消するよう努力する。
c 更に多くの英文を「読んで」、英語の語順の流れに慣れるようにする。
d 更に多くの英文を「聞いて」、英語の語順の流れに慣れるようにする。
f わからない
g その他
4. The Elephantmanの英文の難易度はどうだったでしょうか?
(かなり易しい ・ まあまあ理解できる ・ 今ひとつ理解できない ・ かなり難しい)
5. The Elephantmanという物語自体の感想はどうだったでしょうか?
(とても面白かった ・ まあまあ興味を持てた ・ あまり興味を持てなかった ・ 面白くなかった)
6. 多読授業を受けた後、物語のプリントを自宅/寮/下宿に帰ってから再度読んでみましたか? 選択肢一つを○で囲みなさい。
a 授業で扱った文を全部「ざっと」読み返した。
b 授業で扱った文を全部「じっくり」読み返した。
c Comprehension Checkに関係ある部分だけを読み返した。
d 全然読み返さなかった。
7. 普段の教科書を使った授業とは違う方法で読解を進めましたが、その方法は良かったですか?
(はい ・ まあまあ ・ それほど ・ いいえ)
8. またこのような授業を受けてみたいと思いますか?
(はい ・ まあまあ ・ それほど ・ いいえ)
- Thank you for your cooperation!!

学科名	1				2								3								4					
	興味深かった	まあまあ	あまり	面白くない	a	b	c	d	e	f	g	a	b	c	d	e	f	g	かなり楽しい	まあまあ	今ひとつ	かなり難しい				
A	4	26	9	0	8	17	4	7	3	2	1	27	2	9	1	0	2	1	6	32	4	0				
B	9	28	3	0	4	22	9	4	0	0	1	20	5	8	7	0	0	0	6	31	3	0				
C	10	24	4	1	2	20	9	4	3	0	4	19	6	10	7	0	1	0	5	33	2	0				
D	10	22	2	3	4	21	7	2	1	0	5	25	4	3	7	0	1	0	3	31	6	0				
E	5	22	6	7	1	17	11	3	2	3	3	22	3	4	6	0	5	0	1	27	10	2				
全1年生合計	38	122	24	11	19	97	40	20	9	5	14	113	20	34	28	0	9	1	21	154	25	2				
全1年生%	19%	63%	12%	6%	9%	48%	20%	10%	4%	2%	7%	55%	10%	17%	14%	0%	4%	0%	10%	76%	12%	1%				
全1年生%	82%																				87%				13%	

学科名	1				2								3								4					
	興味深かった	まあまあ	あまり	面白くない	a	b	c	d	e	f	g	a	b	c	d	e	f	g	かなり楽しい	まあまあ	今ひとつ	かなり難しい				
A	4	26	9	0	8	17	4	7	3	2	1	27	2	9	1	0	2	1	6	32	4	0				
A %	10%	67%	23%	0%	19%	40%	10%	17%	7%	5%	2%	64%	5%	21%	2%	0%	5%	2%	14%	76%	10%	0%				
A	77%																				90%				10%	

学科名	1				2								3								4					
	興味深かった	まあまあ	あまり	面白くない	a	b	c	d	e	f	g	a	b	c	d	e	f	g	かなり楽しい	まあまあ	今ひとつ	かなり難しい				
B	9	28	3	0	4	22	9	4	0	0	1	20	5	8	7	0	0	0	6	31	3	0				
B %	23%	70%	8%	0%	10%	55%	23%	10%	0%	0%	3%	50%	13%	20%	18%	0%	0%	0%	15%	78%	8%	0%				
B %	93%																				93%				8%	

学科名	1				2								3								4					
	興味深かった	まあまあ	あまり	面白くない	a	b	c	d	e	f	g	a	b	c	d	e	f	g	かなり楽しい	まあまあ	今ひとつ	かなり難しい				
C	10	24	4	1	2	20	9	4	3	0	4	19	6	10	7	0	1	0	5	33	2	0				
C %	26%	62%	10%	3%	5%	48%	21%	10%	7%	0%	10%	44%	14%	23%	16%	0%	2%	0%	13%	83%	5%	0%				
C %	87%																				95%				5%	

学科名	1				2								3								4					
	興味深かった	まあまあ	あまり	面白くない	a	b	c	d	e	f	g	a	b	c	d	e	f	g	かなり楽しい	まあまあ	今ひとつ	かなり難しい				
D	10	22	2	3	4	21	7	2	1	0	5	25	4	3	7	0	1	0	3	31	6	0				
D %	27%	59%	5%	8%	10%	53%	18%	5%	3%	0%	13%	63%	10%	8%	18%	0%	3%	0%	8%	78%	15%	0%				
D %	86%																				85%				15%	

学科名	1				2								3								4					
	興味深かった	まあまあ	あまり	面白くない	a	b	c	d	e	f	g	a	b	c	d	e	f	g	かなり楽しい	まあまあ	今ひとつ	かなり難しい				
E	5	22	6	7	1	17	11	3	2	3	3	22	3	4	6	0	5	0	1	27	10	2				
E %	13%	55%	15%	18%	3%	43%	28%	8%	5%	8%	8%	55%	8%	10%	15%	0%	13%	0%	3%	68%	25%	5%				
E %	68%																				70%				30%	

表2 平成12年度英語A第2回アンケート集計結果(1)

学科名	5				6				7				8											
	とても面白い	まあまあ	あまり	面白くない	a	b	c	d	はい	まあまあ	それほど	いいえ	はい	まあまあ	それほど	いいえ								
A	7	28	7	0	13	1	6	22	13	26	3	0	19	17	6	0								
B	9	25	4	0	12	1	10	17	18	18	4	0	19	15	6	0								
C	11	23	4	2	16	2	14	8	18	19	3	0	25	11	4	0								
D	13	21	3	3	12	6	10	12	23	13	4	0	25	12	3	0								
E	5	25	8	2	12	1	10	17	14	15	9	2	13	15	7	5								
全1年生合計	45	123	26	7	65	11	50	76	86	91	23	2	101	70	26	5								
全1年生%	22%	61%	13%	3%	32%	5%	25%	38%	43%	45%	11%	1%	50%	35%	13%	2%								
全1年生%	84%				16%				88%				12%				85%				15%			

学科名	5				6				7				8											
	とても面白い	まあまあ	あまり	面白くない	a	b	c	d	はい	まあまあ	それほど	いいえ	はい	まあまあ	それほど	いいえ								
A	7	28	7	0	13	1	6	22	13	26	3	0	19	17	6	0								
A %	17%	67%	17%	0%	31%	2%	14%	52%	31%	62%	7%	0%	45%	40%	14%	0%								
A	83%				17%				93%				7%				86%				14%			

学科名	5				6				7				8											
	とても面白い	まあまあ	あまり	面白くない	a	b	c	d	はい	まあまあ	それほど	いいえ	はい	まあまあ	それほど	いいえ								
B	9	26	4	0	12	1	10	17	18	18	4	0	19	15	6	0								
B %	23%	67%	10%	0%	30%	3%	25%	43%	45%	45%	10%	0%	48%	38%	15%	0%								
B %	90%				10%				90%				10%				85%				15%			

学科名	5				6				7				8											
	とても面白い	まあまあ	あまり	面白くない	a	b	c	d	はい	まあまあ	それほど	いいえ	はい	まあまあ	それほど	いいえ								
C	11	23	4	2	16	2	14	8	18	19	3	0	25	11	4	0								
C %	28%	58%	10%	5%	40%	5%	35%	20%	45%	48%	8%	0%	63%	28%	10%	0%								
C %	85%				15%				93%				8%				90%				10%			

学科名	5				6				7				8											
	とても面白い	まあまあ	あまり	面白くない	a	b	c	d	はい	まあまあ	それほど	いいえ	はい	まあまあ	それほど	いいえ								
D	13	21	3	3	12	6	10	12	23	13	4	0	25	12	3	0								
D %	33%	53%	8%	8%	30%	15%	25%	30%	58%	33%	10%	0%	63%	30%	8%	0%								
D %	85%				15%				90%				10%				93%				8%			

学科名	5				6				7				8											
	とても面白い	まあまあ	あまり	面白くない	a	b	c	d	はい	まあまあ	それほど	いいえ	はい	まあまあ	それほど	いいえ								
E	5	25	8	2	12	1	10	17	14	15	9	2	13	15	7	5								
E %	13%	63%	20%	5%	30%	3%	25%	43%	35%	38%	23%	5%	33%	38%	18%	13%								
E %	75%				25%				73%				28%				70%				30%			

表3 平成12年度1年英語A第2回アンケート集計結果(2)

た各種資格試験受験の奨励など 1 年生だけではなく高専の全学生に対して行っていくべき有効な手法はまだ多くあり、更に追求していく必要があり、今後の取り組みの課題となるだろう。

一方で、前半部で述べたように高専入学生の英語力低下の懸念とそれに対する対策も、緊急に施す必要がある。そういう意味でも、学生の英語力を補充するためには、今まで取り入れていなかった手法、あるいは今まで必要性を感じていなかった手法を普段の授業に織り込んでいき、粘り強く持続していくことも視野に入れておく必要がある。

即ち、学生の英語力で今まで伸ばし切れていなかった部分を発展させていく取り組みと、今までの学生よりも基礎力の補強に力を入れていくための取り組みの、二つの方向性の異なる取り組みを進めていく事が不可欠になってきているということである。この 2 つの取り組みを両立していくのはかなり至難の極みとなるであろうが、本校学生の英語力を少しでも高いものにしていくためには、英語科教官として努力していかなければならないと思っている。

最後に、今回の試みは文法訳読法の範疇を大きくはみ出るものではなかったものの、その結果は、今後の授業改善の端緒として一つの方向性を指し示しているように思う。そして以後更に授業の在り方自体の変革も含めて考えていくつもりである。

使用教材

吉田健作（編）
「シグマ基礎英単語1500」
（文英堂，1995）

VICARY, Tim
“The Elephant Man”
（Oxford University Press, 1989）

BASSETT, Jennifer
“The President’s Murderer”
（Oxford University Press, 1991）

参考文献

安宅邦光、東俊文、堀登代彦
「リーディング力向上のためのリスニング指導」
（苫小牧工業高等専門学校紀要第34号，1999）

齊藤栄二
「英文和訳から直読直解への指導」
（大修館書店，1996）

（平成12年11月27日受理）

